

JA全農ウィークリー

4.5面

JAアクセラレータープログラム第2期 成果発表会開催 スタートアップ企業8社が成果発表(経営企画部)

2面



農業用パイプハウスの自力施工で実地研修
(2面)



岐阜県本部の西濃物流センターから戸配送
に出発するトラック(2面)



JAアクセラレータープログラム第2期で成果を発表した8社代表(4-5面)

2 戸配送の西濃物流センターで出発式 (岐阜県本部)

3 100%国産米粉パン使用の料理提供
(経営企画部)

盛岡駅ビルで「いわてアグリキャンペーン」
(岩手県本部)

6 JAズームイン(愛媛:JAえひめ中央)

7 JAズームイン(埼玉:JAあさか野)

8 体験型フードパーク

「KADODE OOIGAWA」オープン

JAタウンショップ紹介

飛騨・美濃うまいもん広場(JA全農岐阜)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから

Web
限定

福島牛クラウドファンディング
「～#プロジェクトF あなたに届け福島牛～」
目標達成! (福島県本部)

「Aコープファーマーズみやうち」
グランドオープン（広島県本部）

プハウスの自力施工を
支援 実習交えて研修会
（千葉県本部）

News!



農業用パイプハウスの自力施工を支援 実習を交えて研修会

台風被害からのパイプハウス復旧を後押し

千葉県本部

千葉県本部生産資材物流部資材課職員による講義



圃場で実地研修



千葉県本部は10月30日、千葉県と共催で成田市の千葉県本部営農技術センターで農業用パイプハウスの自力施工に係る研修会を開きました。

研修会は、昨年の台風15号と19号で被害を受けたパイプハウスの復旧支援を目的に2月に続く開催となります。千葉県内を地区別に分け同所で3回開く予定で、今回は生産者ら約60人が参加しました。千葉県本部生産資材物流部資材課の職員が建て方の手順や安全対策について座学で講義した後、圃場へ移動。参加者は、測量をはじめパイプの組み立て、フィルムの展張など現物を前に説明を受けるとともに、要所の作業を体験しました。写真や動画で記録しながら受講している参加者も多く、自力施工の習得に努めていました。

News!



西濃物流センターの出発式を開催

JAにしみの管内の戸配送が稼働

岐阜県本部

西濃物流センター出発式でテープカットする関係者



戸配送車が次々と出発



岐阜県本部は11月2日、養老町に新設した「西濃物流センター」の出発式を開きました。この施設は、JAにしみの管内の物流合理化によるコスト低減を目指した物流施設の拠点であり、県内では4か所目の物流拠点となります。

出発式にはJAにしみの、岐阜県本部、岐阜県JAビジネスサポート株式会社の関係者約60人が参加しました。安全祈願として同社の川崎博文社長から運転手代表にお守りが贈呈された後、小林徹JAにしみの組合長、西村寿文県本部長、川崎社長によるテープカットが行われました。その後、21台の戸配送車が次々と出発しました。

物流センターの立ち上げについては、平成30年度から実態調査の上、物流改革プロジェクトは継続した安定配送ができるよう配送面からサポートしていきます。

今後、3者が物流合理化に向けて相互協力し、コストの低減と持続可能な配送体制を構築するとともに、営農指導・経済業務を重点的に強化することで、農業所得の増大に寄与することを目指します。



100%国産米粉パン使用の料理を提供

お米の特性生かしたクロックムッシュに

経営企画部

東京・大手町のＪＡビル地下１階にある「ラ・カンパニー東京大手町」で、店内で焼き上げた１００％国産米粉パン使用のクロックムッシュをワンプレートランチとして提供を始めました。

全農は、既存の枠組みや固定概念にとらわれない新たな事業発掘を目的に、新規事業提案制度「Zennovation」に取り組んでいます。この１００％国産米粉パンは、Zennovation 2018での提案を元に「α化米粉活用を通じた米の需要拡大」の事業化を目指して検討を重ねてきました。

提案した職員の連日の試行錯誤と、ラ・カンパニーのシェフ

の協力により、１００％米粉パンをおいしく焼き上げることに成功しました。異なる性質の米粉をオリジナルブレンドし、小麦や添加物を



「クロックムッシュ」はランチタイム限定で提供
※焼き時間がかかるため、事前の予約がおすすです

ラ・カンパニー東京大手町
TEL: 03-5293-1171



使うことなく国産のお米１００％で焼き上げたパンです。お米の特性を生かし、クロックムッシュらしく外はカリッ、中はしっとりもちりとした仕上がりになっており、ベシヤメルソースも米粉で作るほどのこだわりの逸品です。この米粉パンを使用したクロックムッシュをワンプレートランチで提供しています。

ＪＡビルにお立ち寄りの際は、焼きたて、出来たての味をぜひご賞味ください。



盛岡駅ビルで「いわてアグリキャンペーン」開催

県産りんどうと原木乾しいたけの魅力発信

岩手県本部

岩手県本部は、岩手県立大学とＪＲ盛岡駅ビルフェザンと協働で岩手県産「りんどう」と「原木乾しいたけ」の認知度向上を目指し10月17～30日、「いわてアグリキャンペーン」を盛岡駅ビルフェザンパティオで行いました。

キャンペーンの初日には、学生が来場者へハ幡平市交代産のりんどうをプレゼントした他、りんどうを使用したディスプレイ展示が行われました。「喫茶×りんどう」をテーマに、テーブルにりんどうを生けた花瓶やケーキ、キャンドルなどを配置し、りんどうの魅力をPRしました。

「原木乾しいたけ」はオリ



りんどうディスプレイ展示



学生が県産りんどうをプレゼント

ジナルレシピを学生が考案し、SNSで発信していきます。今後は実際に考案されたレシピを基にレシピ集の作成、飲食店での提供を目指します。

この取り組みを通して、多くの人に「りんどう」・「原木乾しいたけ」を知ってもらい、うきつけにすることができました。

ンの主要産地の大半と接点を持つことができました。またJA三井リース(株)との連携で、初期導入費用を割賦払いにすることも可能(予定)にすることができました。

テラスマイル(株)は「スマート農業を見える化し新たな農業経営スタイルを全国に普及」のテーマで、自社で開発したRight ARM(ライトアーム)でさまざまなデータの分析、営農課題の特定、オペレーションの改善による生産者の所得向上を目指しています。営農管理システムZ-GISとの連携など、データ活用型営農指導の普及とRight ARMの導入推進に向けてJAグループとの協業が決定しています。

(株)グリーンエースは「粉末化技術で野菜不足とフードロスを解決」のテーマで、5年間の研究開発を基に実現した、色や香り、栄養成分を保持したまま野菜を粉砕できる技術により、生産現場や加工現場で発生する食品ロスを解消することに加え、消費者の食生活の向上を目指しています。11月には野菜不足解消サービスVegemin(ベジミン)を立ち上げ、テスト販売を始めています。また来年にはニッポンエールへの活用を予定しています。

(株)CuboRex(キューボレックス)は「手押し車の電動化キットで中山間地農業の作業負担を軽減」のテーマで、自社で開発し、安価に取り付けることができる補助動力「E-cat kit」により、農作業の軽労化に貢献することを目指しています。

プログラム期間中の10月から和歌山県のJAありだで取り扱いが始まり、果樹農家を中心に好評です。今後、全国展開に向けて取り組んでいく予定です。



手押し車の電動化キットを披露するCuboRexの社員

myProduct(株)(マイプロダクト)は「地域の体験型観光プランを企画開発し、簡単予約!」のテーマで、地域の魅力を体験型の産業観光で発信するデジタルプラットフォームを開発・運営し、地方と都市との新しい接点を創ることを目指しています。日本の農業を誇れる観光資源として、魅力の発掘と発信に取り組み、来年の春には(株)農協観光と栃木県大田原市でのテスト導入を実現していきます。

(株)Agrihub(アグリハブ)は「エンジニア農家発!栽培管理アプリから始まる農業DX」のテーマで、栽培日誌や農薬履歴の管理アプリを開発し、農薬帳票の電子化、生産履歴の蓄積から流通関係者の業務負担の大幅な軽減を目指しています。プログラム期間中には栃木県のJAうつのみやで実証実験を行い、今後複数のJAと実用化に向けて協議を進めています。また営農管理システムZ-GISへのサービス提供も開始しました。

最後に山崎周二理事長が「8社いずれも現在日本農業



全体講評する山崎理事長

が抱える課題に対して的確かつ未来志向で解決を図ってこうという事業だ」と評価し、その上で1社ごとに今後への期待をコメントしました。また、伴走者に対しても「半年間スタートアップと共に汗をかけた経験はこれ

から広い視野で新たなビジネスを創造することに役立つ」とねぎらい、全体講評を締めくくりました。

AgVenture Labは、次年度の第3期の実施に向けて現在準備中です。

JA全農の伴走者の声

CuboRexの伴走者

東京畜産生産事業所 梶 翔太さん



伴走者として、分野に縛られず協同する大切さ、良い技術は農業従事者と製造技術者が相互に課題解決に全力で取り組んだ時に創出されることを実感できました。今後も農作業軽労化につながるさまざまな技術を世に出されることを期待しています。

AGRISTの伴走者

耕種資材部総合課 熊坂 理沙さん



農業者からの期待の高さを目の当たりにし、新たな挑戦への高揚感を感じながらチーム全員で駆け抜けた半年間でした。JAグループ内の調整には苦労しましたが、おかげで人脈が広がり、COOの高橋さんからは核となる部分は固持しつつ、思考を柔軟に変え前に進めていく姿勢を教えてくださいました。

当日の動画はこちらから
ご覧いただけます。





成果を発表した8社代表と農林中金・奥理事長、AgVenturelab・荻野理事長、山崎理事長（後ろ右）

JAアクセラレータープログラム第2期 成果発表会を開催

スタートアップ企業8社が成果発表

AgVenture Labは11月12日、「JAアクセラレータープログラム(第2期)」の最終成果発表会(デモデイ)を開きました。【経営企画部】

第2期のプログラムは163件の応募の中から採択された、食・農・くらしの領域に関わるスタートアップ企業8社を支援する取り組みで、農林中金と全農職員が伴走者として採択企業に寄り添い、JAグループとの協業を推進。5月のスタート以来、コロナ禍の中での半年間という限られた活動・期間での成果を発表しました。

(株)シェアグリは「特定技能人材のスポット派遣で労働力不足を解消」のテーマで、農繁期の必要な時期に必要な労働力を派遣することで労働力不足の解消を目指しています。プログラム期間中には全国16のJA組織の紹介により、複数県で派遣先が決定し業績を成長させることができました。

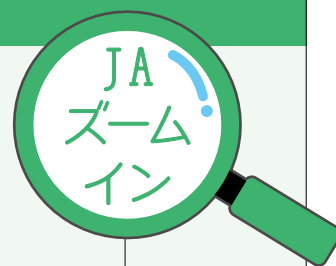
(株)トルビズオンは「ドローン航行のための上空シェアサービス『sora:share』」のテーマで、ドローン物流の実現に備えて農地上空の使用権をビジネス化することで農家の権利保護と農地保全を同時に図ることを目指しています。プログラム期間中には佐賀県多久市で、中山間地におけ

る実証実験を成功させました。

AGRIST(株)(アグリスト)は「農業の人手不足をAIと収穫ロボットで解決」をテーマに、国際特許申請中のつり下げ式収穫ロボットで、生産現場において集中的な作業である収穫の自動化を目指しています。現在はピーマンをターゲットにし、地元の宮崎県だけではなく、ピーマ



国際特許申請中のつり下げ式収穫ロボット



伊予柑園地の若返りに力

直営施設で地域の食PR

1999年4月に12JAが合併して誕生したJAえひめ中央は、愛媛県の中央に位置し、島嶼部、沿岸部、都市部、中山間・山間部と環境もさまざまな県下一番の広域JAです。瀬戸内の温暖な気候から、1年を通

して柑橘栽培が盛んな地域でもあります。

**伊予柑の産地維持と
農業者の所得増大へ**

伊予柑生産量全国一を誇る同JAは、産地維持を図ろうと伊予柑苗木の

無料配布を行っています。2018年3月から21年3月までに8万本を配布する計画で、JA営農部の職員や新規就農研修生らが丹精込めて育てた苗木を管内全域の希望者に届けています。この取り組みで、管内生産面積の10%ほどの若返りが可能となる計画です。品質の高さと価格帯、長期販売が可能などから、市場から人気が高い伊予柑。柑橘経営の柱となる品種のため、園地の若返りにより収量の確保と農家の手取り向上につなげています。

JAえひめ中央 (愛媛県)



地域活性化と 食農教育への貢献

安全・安心かつおいしく新鮮な管内農産物提供の場として19年4月に、複合施設「みなとまちまってる」をオープンしました。施設内1階にはJA直営の「えひめ中央おひさま食堂」や「えひめ中央おひさまCAFÉ」があり、管内の特色を生かしながら季節ごとに多彩な料理やスイーツを提供しています。

同JAは、そのほかにも「新規就農者確保に向けた研修プログラムの実施」や「JAキッチンスタジオを活用し食を通じたJAファンの獲得」「女性大学開校による新たなJA利用層の拡

大」など、多方面から農業振興に向けて取り組んでいます。今後とも生産者ならびに消費者の声に真摯に向き合い、JAとしての役割を果たします。

概要

令和2年3月31日現在

正組合員	1万5230人
准組合員	2万4737人
職員数	1195人
販売品販売高	125億円
購買品取扱高	82億円
貯金残高	2823億円
長期共済保有高	6398億円
主な農畜産物 柑橘(伊予柑、紅まどな、せとか、温州みかんなど)、落葉果樹(キウイフルーツ、ブドウ、栗、びわなど)、ナス、キュウリ、ピーマン、タマネギ、園芸シタケ、イチゴ、花き、花木(ユリ、ユカリ、若松、シキミなど)	



1年を通して柑橘栽培が盛んな管内

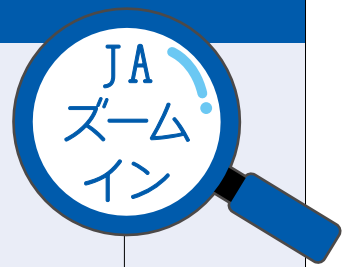


伊予柑苗木を管理する園地

伊予柑苗木を管理する園地



JA直営の食堂・カフェでは管内食材を使ったメニューを提供



女性農業者の活躍による

地域農業の発展に向けて

JAあさか野は東京都に隣接した都市近郊で宅地も多く、消費者に最も近い産地としてニンジン・サトイモ、ホウレンソウなどの市場出荷に加え、JAの直売所やスーパーなどのインショップ、庭先直売など多

様な販売形態によって地域の農業が成り立っています。

女性農業者と女性TAC・管理栄養士が連携

女性の視点での新たなターゲット層として、若い家族世帯や小学生の子ども



「ONE TEAM」で6次化商品開発



加工場の衛生管理の実施

加工食品扱う組合員に衛生管理指導しつかり

たちに向けた地場産野菜の収穫体験、生産者による収穫後の青空講義を女性TAC担当者が提案しています。また、付加価値を高めるため6次化の取り組みとして、管理栄養士資格を持つ女性職員と連携し、正確な食品表示によって購入者に安心・安全をアピールすることができました。また支店の女子職員や直売所のパートの意見を取り入れるなど多くの人の協力で、「ONE TEAM」で商品開発を行っています。

6次化商品など加工品を取り扱う組合員を対象に、危害分析重要管理点



管理栄養士による加工食品衛生研修会

(HACCP)に基づいた加工食品衛生研修会を実施しています。講師は管理栄養士の資格を持つ女子職員が担当。商品の製造から出荷までの作業で起こる食中毒や異物混入、食品表示のアルエルギー誤表示による事故例などを交えて講義を行いました。

今後は、女性農業者の活



女性農業者とTAC担当者による青空講義

躍を、地域の農業の発展につなげていき、地域とのつながりが深い女性農業者の力で、さまざまな活動を通じて地場産野菜のおいしさを消費者へ伝えていきます。また、農業体験や講習会などを実施し、地域の消費者にJAの事業に関心を持ってもらうことも目標としています。

JAあさか野(埼玉県)



概要

令和2年3月31日現在

正組合員数	2583人
准組合員数	1万1994人
職員数	182人
販売品取扱高	6億2千万円
購買品取扱高	9億2千万円
貯金残高	2714億9千万円
長期共済保有高	3888億9千万円
主な農畜産物	秋冬ニンジン、サトイモ、米「コシヒカリ」

体験型フードパーク「KADODE OOIGAWA」がオープン 大井川地域と人の魅力を“ひらく”



施設の全景



野菜マルシェ(農産物エリア)



緑茶マルシェ(緑茶エリア)

構想から約4年半、静岡県のJA大井川と島田市、大井川鐵道(株)、中日本高速道路(株)の4者連携によるプロジェクトの一環として進められてきた「KADODE OOIGAWA(かどでおおいがわ)」が、十分な感染拡大防止策を講じた上で11月12日、島田市にオープンしました。

KADODE OOIGAWAは大井川流域の農業・緑茶・観光の体験型フードパークで、野菜マルシェ、緑茶マルシェ、カフェ、キッズパーク、農家レストラン、観光案内所で構成されています。

マルシェ(緑茶エリア)では、茶葉からおいしい緑茶になるまでを体験するツアーやお茶のいれ方を学べるワークショップ、お茶の飲み比べなどを体験できます。また、農家レストランとカフェでは、大井川流域の緑茶や農産物を使用したフードやスイーツ、ドリンクを楽しめます。

大井川流域の魅力をたっぷり味わえる施設となっています。お近くへお越しの際はぜひお立ち寄りください。

〒428-0008 静岡県島田市竹下62

TEL 0547-39-4073

開館時間 9:00~19:00

※一部エリアは営業時間が異なります。

KADODE OOIGAWAのホームページはこちら▶▶▶



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

飛騨・美濃うまいもん広場 (JA全農岐阜)

「飛騨旨豚」は、おいしさと安全へのこだわりを求めて誕生したプレミアムポークで、岐阜県内の指定農場で大切に育てられています。しっかりと味のある赤身と上品な甘みを持つ脂身は、さっぱりとしながらもうま味があります。

飛騨旨豚のロースと肩ロースをしゃぶしゃぶ用にスライスしました。部位の違いを食べ比べてお楽しみください。



「飛騨旨豚」しゃぶしゃぶセット ロース・カタロース
各300g 岐阜県産……6200円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com